

うきは市の「小学校」保護者の皆様へ

～ 令和5年度全国学力・学習状況調査等から ～

令和5年9月

うきは市教育委員会



新型コロナウイルスが5類感染症に移行され、教育活動もこれまでの活動が戻りつつある中、児童たちは今できることをがんばり、確実に成長しています。一人一人が自分の目標をしっかりと設定して、更に充実した学校生活を送ってほしいと願っています。

さて、下記要領で実施されました全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。うきは市の状況についてお知らせをし、今後、さらに学校・家庭との協力のもと学力向上の取組を進めていきたいと思いをします。

○ 全国学力・学習状況調査（令和5年 4月18日実施）

【学力調査】

・小学校6年生225名が受検。国語、算数、学習状況調査の内容については以下の通りです。

○ 出題内容

国語・・・知識及び技能(言語の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関すること) 思考力、判断力、表現力等(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)

算数・・・数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用及び知識・技能、思考・判断・表現

○ 出題形式・・・選択式、短答式、記述式

【学習状況調査】

※実態を把握し、対策を考える上で、学力調査と同様にとっても大切な内容のある調査です。

規範意識(きまりを守ること等)、自尊感情(自分のよいところや自信の持ち方等)、言語活動(自分の考えを説明すること)、生活習慣(早寝、早起き等)、学習習慣(家庭学習)に関するアンケート調査。

○うきは市の小学6年生の学力・学習調査の結果

国語・算数ともに伸びが見られる。(資料1参照)

資料1

これまで3年間の国語、算数の標準化得点(全国平均を100として)をみると、令和5年度は共に全国平均を上回る結果でした。各学校での昨年度までの取組の成果だと考えます。各教科の内容を見ますと、次のような成果と課題がわかりました。

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
国語	99	98	101
算数	99	99	101

【成果】

- ・国語で、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えたり、必要なことを質問したりする「話すこと・聞くこと」の領域での大きな伸びが見られました。また、目的を意識して中心となる言葉や文を見つける「読むこと」にも伸びが見られました。これは、自分の考えの根拠を明確にして、友達と学び合う学習に日々取り組んだ成果だと考えます。
- ・算数では、示された表や図などのデータから必要な情報を読み取る「データの活用」の領域に大きな伸びが見られました。また、伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取る「変化と関係」の領域にも伸びが見られる。これは、情報と情報に関係付けて考えたことを根拠と理由を明確にして表現する学習に取り組んでいることの成果が表れてきていると考えます。

【課題】

- ・国語「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」という点で課題が見られます。今後、関係付けたり、考えた理由を書いたり等の「書くこと」を重視した学習に更に取り組む必要があります。
- ・算数「示された日常生活の場面を解釈し、求めた結果が条件に当てはまるか判断する」という点で課題が見られます。今後、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明する学習に取り組む必要があります。

○児童質問紙から明らかになったこと

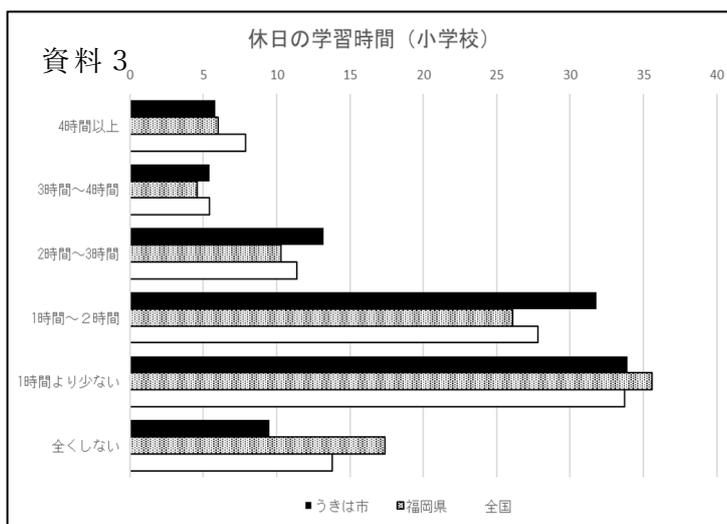
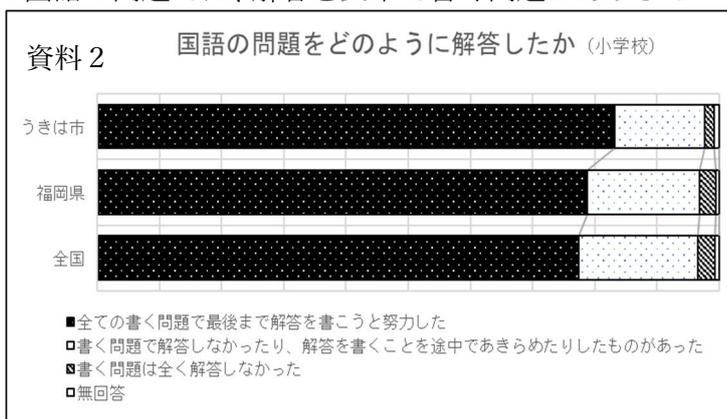
学習状況調査の児童質問紙の中の「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか。」という質問項目では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が85%で福岡県・全国よりも約4P上回っています。(資料2) このことから、難しい問題にも最後まで解答しようという意欲の高まりが感じられます。

これは、これまでの「書いたり」「説明したり」することを重視した授業づくりを進めてきた成果だと考えられます。

また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問事項で、「1時間から3時間の間」は福岡県・全国を上回っています。さらに「全くしない」の割合は福岡県・全国を下回っていることから、家庭での学習習慣が定着しつつあることがわかります。(資料3)

これは、家庭学習の習慣化を図るためにプラスワノートを活用した取組を継続している成果だと考えられます。

今後も小・中学校で連携した取組を継続することで学力の向上や自己肯定感の向上につなげたいと考えています。



○うきは市での学力向上に向けた取組

◇小・中学校で連携した取組

- ① 小・中学校をつなぐ「表現すること」を重視した授業づくり
 - 小・中学校で共通して、ICTを効果的に活用し、「根拠をもとに書いたり、説明したり」を重視した授業づくりに日々取り組んでいます。
- ② 小・中学校が連携した学習規律7ヶ条のさらなる徹底を図ります。



◇学校と家庭と連携した取組

- ① 小・中学校をつなぐ家庭学習の取組 (習慣化を図るために)
 - 小学校高学年からの宿題に加えて自分の課題に応じて取り組むプラスワノートを中学校とつないでいきます。
 - ※自分に応じた進め方を考え、実践する力や態度を身につけることができると考えます。



○家庭 (保護者の方々) をお願いしたいこと

- ① 落ち着いて、集中して勉強できる環境をつくりましょう。
- ② お子さんが自分で決めた計画やペースを尊重し、見守りましょう。
- ③ お家の方が、積極的に関わり、見守ったり一緒に調べたりして、大人に見守られている安心感を味わわせましょう。